

# 運輸労連 神奈川県連合会 第50回 定期大会

日 時：2017年9月2日（土）13：00～

場 所：ワークピア横浜

代議員：104人

報告者：照井 良知（川崎運送労働組合／書記長）

1969年に結成以来、回を重ねて50回目の節目となる神奈川県連定期大会。県連構成組合の代議員、上部団体・機関、各級議員、関係各所の出席のもと、盛大に開催されました。



定期大会開会の司会を務める奥田副執行委員長は冒頭、今年5月に亡くなられた『鈴木 啓二』前神奈川県連執行委員長に感謝と哀悼の想いを込めて、黙とうを捧げました。

奥田副執行委員長は開会のあいさつの中で、『時間外労働の上限規制』についてふれ運輸労連の考え方や、『運転者業務の一般則適用』への運動として100万人請願願書の取り組みを強く訴えました。

今井資格審査委員長より、大会告示・議案書の配布・代議員の割り当て・各代議員の資格について、審査した結果、全てが適正に実行され、また代議員全員が有資格者であること、代議員出席者が104人であることも合わせて報告され、「大会成立要件すべてが具備されている」と報告されました。

今井資格審査の報告を受け、奥田副執行委員長が『運輸労連神奈川県連合会 第50回定期大会』の開催を宣言しました。

議長団選出では、浅井代議員（丸全昭和運輸労働組合）・松本代議員（日新労働組合）両名が確認されました。登壇の挨拶で浅井議長が、「運輸産業は、優れた環境の中にはない。ゆとり・豊かさを追求すべきであり、若年層にこの業界を選んでいただくためには必要。本日の定期大会で問題意識を共有し、魅力ある産業をめざした労働運動をお願いしたい」と述べました。



亀崎県連執行委員長

神奈川県連を代表して、亀崎執行委員長より、「働き方改革」「労基法改正案」「政治」の3点に要約した、業界の問題点が提起されました。

働き方改革については、「自動車運転者に改正労働基本法の時間外上限規制の一般則適用を求める100万人請願署名」は、運輸労連50万、連合・交運労協など働く仲間の協力にて50万の署名に取り組んでいる。働く仲間は、見方を変えれば、元請けであり、利用者・消費者です。この働く仲間に、取り組みの趣旨を訴えることこそ、大きな世論喚起に繋がるのだらうと確信をしています。」と改めて協力要請を訴えました。

労働基準法改正案については、「2015年法案には、月60時間超えの

超勤割増率 50%が適用猶予となっている中小企業の取り扱いを「廃止」など労働側からも評価すべき内容も含まれているが、過労死促進法とも揶揄されている「高度プロフェッショナル制度」や「課題解決型提案営業への裁量労働制の適用拡大」などが含まれており、秋の臨時国会で「働き方改革実行計画」にもとづく時間外上限規制の改正案と、「抱き合わせ」で審議されることになっています。また、「解雇の金銭解決」など、働く者の「安全、安心、安定」や、長時間労働、過重労働、過労死、過労自殺防止という観点からみても、正に真逆の法案が、現実的問題として成立しつつあると言うことを、代議員各位におかれましても、是非、身近な課題として捉え、問題意識を持っていただきたい」と強く述べました。

政治については、「我々の業界では、改善基準告示や物流二法への対応、更には、今次「労基法の改正」の取り組みを含め、政治を通じ行政や立法への働きかけは、我々の「働き方」や「待遇」に直結する、極めて重要な取り組み。安心、安全な働く環境づくり、更には、業界に働く者の社会的地位の向上に向けて、「政治力」が不可欠である以上、運動の比重を大きくシフトしなければいけない。運輸労連の政策を理解し、その実現に向け、ともに汗をかく各級議員との連携強化に向け、神奈川版「政策推進議員懇談会」の設置など、政治的影響力の強化に向け、更なる取り組みが必要」と述べました。

小畑中央書記長（運輸労連本部）は、「政治情勢」「働き方改革の問題点」「モデル賃金表の活用」「送料無料標記の問題点」「組織改革 運動の底上げ」について説明・運動の展開などを含めたあいさつがされました。

柏木会長（連合神奈川）、宍戸議長（神奈川交運労協）よりごあいさつがされました。



小畑中央書記長(運輸労連)



柏木会長(連合神奈川)



宍戸議長(神奈川交運労協)



亀崎執行委員長より、海上会長（神奈川県交通遺児家庭の会）へ支援カンパ金の贈呈がされました。

来賓退席、休憩を挟んで、望月書記次長より 2016 年度一般経過報告、高橋書記長より決算報告、菊地会計監査より会計監査報告。議事に入り、第 1 号議案 2017 年度運動方針（案）、第 2 号議案一般会計予算（案）について代議員の承認を得て可決し、2017 年度の運動方針を確立するとともに、2017 年度神奈川県連執行部体制も承認されました。

今回の方針については、組織強化の観点から『運輸労連神奈川県連合同労働組合』について研究を深め、既存の組合が、万が一に組合運営が困難になった場合における、緊急避難的な受け皿として合同労組の設置を検討するというものです。しっかり支えられる体制づくりは産別組織として欠かせない取り組みとして運動方針として示されました。

新執行部を代表し、亀崎執行委員長との挨拶では、亡くなられた鈴木前執行委員長の思い出話、今季退任される奥田前副執行委員長のこと、政治との関わりについて話され、私たちが政治を動かすには、私たちが何かをしなければならぬと訴えました。

松本議長は降壇のあいさつで、自身が県連執行委員になることもあり、「髪が真っ白になるまで頑張る」とやる気を前面に出していました。

尾池副執行委員長は、閉会のあいさつの中で、「煙草を吸わない人に休暇を与える企業もある。今、様々な働き方がすすめられている。労働条件をより良くするためには、働き方も含め企業との話し合いの場を持ち、互いにアイデアを出すことも大切」と述べました。

最後に亀崎執行委員長のガンバロー三唱で、定期大会は無事終了しました。



## 2017年度執行部体制

執行委員長	亀崎友彦	(再)	全日通労働組合神奈川支部	
副執行委員長	阿部健次郎	(再)	川崎運送労働組合	
	今井勇	(再)	ヤマト運輸労働組合厚木支部	
	宇井浩	(再)	SBSフレイトサービス労働組合	
	尾池拓郎	(再)	丸全昭和運輸労働組合	
	高橋徹	(再)	ヤマト運輸労働組合横浜支部	
	名張徳亮	(新)	日新労働組合	
書記長	高橋和彦	(再)	全日通労働組合神奈川支部	
書記次長	望月博巳	(再)	川崎運送労働組合	
執行委員	秋田谷純一	(再)	楠原輸送労働組合	
	数見秀樹	(再)	ヤマト運輸労働組合神奈川支部	
	岸昇	(再)	セイノースーパーエクスプレス労働組合	
	小久保誠	(再)	日通湘南物流労働組合	
	鈴木隆行	(再)	トナミ運輸労働組合東神支部	
	高嶋和人	(再)	新栄運労働組合	
	名張徳亮	(再)	日新労働組合	
	萩原和彦	(再)	丸全昭和運輸労働組合	
	籟町達哉	(再)	ヤマトボックスチャーター労働組合	
	松本佳保	(新)	日新労働組合	
	山上和也	(再)	全日通労働組合神奈川支部	
	渡邊豊	(再)	三菱電機ロジスティクス労働組合	
	会計監査	菊地陽一	(再)	楠原輸送労働組合
		中島直樹	(再)	日通川崎運輸労働組合
組織内議員	小泉はるお	(再)	平塚市議会議員	
準組織内議員	織田かつひさ	(再)	川崎市議会議員(宮前区)	